

長岡市・関係企業共同記者発表 要旨

日 時：令和元年 7 月 3 日（水）午後 2 時から

会 場：アオーレ長岡東棟 4 階 大会議室

【発表項目：長岡北スマート流通産業団地 第 1 期エリア進出協定合同締結式・共同記者発表】

出席者：長岡市長 磯田 達伸

アサヒロジスティクス株式会社 代表取締役社長 横塚 元樹

カナカン株式会社 代表取締役 吉田 茂

（代理 常務取締役新潟支店長 高林太保）

J P C 株式会社 代表取締役 吉原 誠

柳下技研株式会社 代表取締役 柳下 勇

株式会社 S y s e 代表取締役 門倉 朗

中越クリーンサービス株式会社 代表取締役社長 金子 重行

（代理 常務取締役 坂爪晴幸）

（司会）

これより進出企業各社と長岡市による長岡北スマート流通産業団地第 1 期エリア進出協定合同締結式を行います。

なお、進出企業全 7 社のうち 1 社は、都合によりまだ社名を公表できないため、本日は欠席しておりますので、6 社と本市で行います。

進出協定締結に先立ち、磯田市長からご挨拶申し上げます。

（長岡市長）

今日は北スマート流通団地の第 1 期分譲の企業決定ということでお集まりいただきまして、ありがとうございます。

この長岡北スマート流通団地の第 1 期エリアは、7 社を決定させていただき、本日は 6 社お集まりいただいております。これから進出協定を締結しますが、いずれも進出決定に当たりましてはそれぞれの企業の事業計画や地域経済への寄与、あるいは市内既存企業への貢献度なども含めて総合的に見させていただきながら、希望区画を決定させていただきました。業種は製造業、流通業、卸売業、あるいは物品賃貸業とさまざまですが、地場産業などと連携してさらに業態を拡大していただく可能性が大きい企業であると考えております。

このたびの企業進出によりまして、およそ 83 億円の設備投資、そして年間およそ 88 億円以上の新規売り上げを見込んでおります。また、従業員数は 7 社全体で 380 人前後ということで、うち新規採用が 120 人と伺っております。長岡は現在首都圏に向けたリクルート、就職が多くなっていますが、ぜひ県外からの U・I ターン、新たな就労者の層を取り込み、定住人口の増加にもつなげていきたいと考え

ています。

さらに、私どもが取り組んでいるN a D e C（ナデック）構想に基づきまして、現在の4大学1高専、そしてまた専門学校を含めて約7,000人の学生がこの長岡の地で学んでいるという、学園都市の側面にぜひ着目していただき、インターンシップや産学の連携にも取り組んでいただきたいと思います。新しい産業団地のモデルケースとして、地場産業のイノベーションが皆さんの力によってさらに進んでいくことを期待しています。

なお、8月16日から3日間、アオーレ長岡でロボカップジャパンオープンが開催されますが、海外からの出場チームを迎えて、小・中学生を中心に約3万人以上の来場者が見込まれます。このイベント会場に、今回進出される企業からそれぞれの紹介ブースを出していただき、将来の雇用にもつながるように活用いただければと思っています。

第2期エリア、さらに今後受け付けを開始する予定の第3期エリアとあわせて長岡の企業立地をさらに進めながら、次の100年に向けて産業振興に取り組んでまいりたいと思っています。

（司会）

続きまして、進出企業各社より、自社のご紹介、進出の概要についてご説明をいただきます。

まずは、アサヒロジスティクス株式会社です。代表取締役社長横塚元樹様、よろしくお願いいたします。

（横塚）

ご紹介いただきましたアサヒロジスティクスの横塚です。

弊社は埼玉県の大宮に本社を置いており、食品専門の物流業を営んでいる会社です。会社全体で40拠点あります。また、1,250台の車両、4,600人以上の人員で365日・24時間、スーパーマーケット、外食産業、そしてコンビニエンスストア、また食品メーカーの食の物流を毎日担わせていただいております。現在関東地方を中心に新潟、また東北で事業を展開しております。毎日1万4,000店舗に納品しておりますので、500万人の方々の日々の食生活をお支えしています。

以前は関東地区だけで事業を行っていましたが、東日本大震災以降、東北や新潟のお客さまからの物流のニーズが非常に高まってまいりましたので、東日本全域をカバーできるネットワーク体制をつくろうと目標を掲げて企業を運営しています。

6年ほど前に長岡地区に事業所を展開し、既に長岡市内で270人ほどの従業員を採用して事業を行っていますが、今後の展開を見据えるとキャパシティの確保や物流を支える体制をつくりたいということで今回、非常に素晴らしい立地であるこの流通産業団地に進出を決めました。

また、長岡リジュベネーションやN a D e C構想など、非常に先進的な取り組みをされている長岡市で、今後も幅広く事業を展開していきたいと思っています。

現在、物流業界では人手不足など物流危機が叫ばれておりますが、人材の採用や育成、また福利厚生など働きやすい職場環境づくりを進めながら、この長岡市のいろいろな先進的な取り組み、また学生や学校と連携して、より人に優しい物流の構築を目指してまいりたいと思っています。

以上です。

（司会）

続きまして、カナカン株式会社です。代表取締役吉田茂様は本日都合によりご欠席のため、常務取締役新潟支店長の高林太保様から代理としてお越しいただいております。高林様、よろしくお願いいたします。

(高林)

カナカン株式会社、高林でございます。よろしくお願いいたします。

カナカン株式会社は、石川県金沢市に本社を置く総合食品卸売業です。同時に、地域の食品物流拠点といたしまして、北信越を中心として、現在45の営業所にて商流と物流機能を一体化しまして、400台余りの車両による強力な配送体系によってスーパーマーケットをはじめ、各小売企業、それから外食産業など、幅広いお得意先様に対して地域に密着した販売活動を創業以来73年間行っています。

2013年には、地域を食でつなぐ同じ志の四国の旭食品、東北の丸大堀内、カナカンの3社が経営統合し、トモシアホールディングス株式会社として新たに発足しております。各社がそれぞれの地域を最も重要視しながら、全国を舞台に活動しております。

今回の進出は、現在運営中の新潟のセンターに加え、長岡センターとの2拠点化により、新潟県下全域の物流網を確立することが目的です。近隣に進出される同業の企業様、また長岡市周辺で食品に携わる小売企業様やメーカー様などとも連携をすることで、昨今の人不足や物流費の高騰などの問題解決にも取り組み、広い新潟県下の隅々まで食品をお届けすることで地域へ貢献してまいりたいと考えています。

また、地元雇用はもちろんのこと、産学連携での商品づくり、地域商材のプロデュースによる商品づくりなど、魅力あるこの地元食材を県内外へ発信します。市内の商業、農業、工業の3つの高校が連携・協力する模擬株式会社「長岡CAT」との商品開発や販売なども検討しています。

長岡市をはじめ地域から信頼されよりどころとされる会社となり、長岡北スマート流通産業団地が魅力ある産業の集積地となる、その一員となれるような地域から信頼される会社となれるよう事業を展開してまいりたいと考えています。

(司会)

続きまして、JPC株式会社です。代表取締役吉原誠様、よろしくお願いいたします。

(吉原)

JPC株式会社の吉原です。よろしくお願いいたします。

当社は、13期目に入りまして、念願の自社工場が創業できることを大変喜んでおります。ながおか新産業創造センターNBIC（エヌビック）で創業し、長岡市からイノベーション構想という中でいろいろなご指導をいただき、また、いろいろな補助金等も活用させていただきここまでやってきました。そして今回、流通産業団地への進出を決定していただきました。

今、長岡近隣で分散して経営している四つの工場を集約して生産の効率を上げ、長岡の工作機械メーカーなどへのアクセスをよくして、受注の拡大に努めたいと思っております。また、今は県外からの受注もかなり増えておりますので、インターチェンジがあるこの良いアクセスを利用して長野や金沢を含めた北陸から仕事をどんどん獲得していきたいと思っております。

また、290人ほどの人材派遣事業を抱えております。人材不足の中、地元のお客さんを中心にいい人

材の紹介や派遣のマッチングに取り組んでいます。

その中で、ベトナムの国立大学のエンジニアが今回3人、この7月半ばに新潟へ入ってきます。長岡技大のベトナム人の学生を採用でき、4人でスタートできます。ベトナム人など外国人を採用している企業として、ここを拠点に発展させていきたいと思っております。

何とか人材の確保を含めて、県外から仕事を獲得する構想を立てておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(司会)

続きまして、柳下技研株式会社です。代表取締役、柳下勇様、よろしくお願いいたします。

(柳下)

柳下技研社長の柳下です。このたびこの場に出席できたことを感謝、御礼申し上げます。

企業概要でございますが、1973年に設立以来46期を過ぎまして、47期に入っております。自動車産業を中心とした各産業界の試作品、治工具、精密部品、省力設備及び装置の構想、設計、製作を社業として、加工部門、メカトロ部門、また(株)ミスミの部品加工の3本柱で一貫生産体制を運用しております。産学連携では、和光市の理化学研究所と医療機器、岡山大学と医療品の開発、群馬大学とはロボットに関する共同研究と開発を行っております。柳下技研は、単独では理研が開発したELID研削の研究と機器の販売を行っております。また、会社はSDGsの5項目に今取り組んでおります。長岡工場は、光学技術を活用した画像検査装置および特注生産設備を担当していますが、売上げの大半は長岡市外の企業から受注しております。

進出理由ですが、長岡に進出して10年、長岡工場の業態が安定してきたので、地域に密着した企業にするために新工場建設を決断しました。

事業の取り組みですが、長岡工場だけで自立できる体制が整いましたので、産学連携の取り組みも積極的に行い、長岡市に貢献できる企業を目指してまいります。

長岡工場の体制ですが、部門はメカトロ部門で、特注設備と装置の構想、設計、製造を行います。要員は5カ年計画を立てておりまして、今11人で、25人を計画しております。

以上の形で、工場面積は約1,500坪の土地、床面積450坪の2階建ての工場にする予定です。

(司会)

続きまして、株式会社S y s eです。代表取締役門倉朗様、よろしくお願いいたします。

(門倉)

株式会社S y s eの門倉といいます。

弊社は、長岡市に機械設計会社として設立してから第34期を迎えております。その間、設計というベースがあればこそできる提案型のものづくりを進め、業務を拡大してきました。現在では、機械制御設計、加工、組み立て調整、機体配線までを一貫して行っており、それが弊社の強みでもあります。また、長岡という明治21年の東山油田の開発から始まった工業都市の歴史を未来につなぐべく、古い機械のレトロフィットやキサゲ、すり合わせ等の技術の伝承にも力を注いでおります。

長岡北スマート流通産業団地への移転理由は、分散している工場と倉庫を集約し、効率化を図ることと、今まで場所を確保出来ず頓挫していたターゲット市場を明確に認識した部品の販売を地域の産

官学金とも連携しながら行う計画があることが挙げられます。部品の販売は広域にわたると予想され、スマートインターの近くという好条件のもと、スピード感ある販売ができるのではと考えております。

それと、もう一つの移転理由としては、未来の働き方につながるところがあります。弊社は、残業規制や401kの加入、育児休業はもとより、出勤時間の選択制や高齢雇用者が自己のペースで働ける仕組み、また若者の雇用については入社後に各工程を体験してもらい、本人の要望に沿った配属をする仕組みを持っております。

移転後の新たな仕組みとしては、ゼロ歳児がいる人でも子どもを連れて出勤できるよう、会社内に育児室を試験的に設ける予定です。今のところ移転後の増員は10人を予定しており、引き続き外国人研修生やエンジニアの募集を行いたいと思っております。特に長岡技術科学大学などからエンジニアを採用し、設計や制御ソフトの開発技術を向上させて、クライアントの要求に応じていきたいと考えております。

最後になりますが、進出協定にもありますように、この産業団地には広域連携する多様な企業が産業集積されておりますので、産業団地独自の取り組みにも期待するところです。

(司会)

最後は、中越クリーンサービス株式会社です。代表取締役社長、金子重行様は本日都合により欠席のため、常務取締役の坂爪晴幸様から代理としてお越しいただいております。坂爪様、よろしく願いいたします。

(坂爪)

今ほどご紹介いただきました中越クリーンサービス坂爪と申します。よろしくお願い申し上げます。

弊社、中越クリーンサービスは、平成6年に創業した企業です。ただ、前身は中越通運で、当社中越グループの一企業でございますので、中越通運の時代から数えますと早いもので29年この長岡の地で営業をさせていただいている企業です。その間、多くのお客さまに恵まれまして、柏崎、または魚沼地区と営業エリアを広げさせていただき、取り扱いの商品につきましても当初の清掃用具の賃貸、それからビルメンテナンス、ホームサービスと、それから福祉用具の貸与ということで事業も広げさせていただいております。施設につきましては、従来当グループの施設を借り受けまして、最初は宮原、それから千手ということで土地を移転しながら営業させていただいております。

今回この長岡の北スマート流通産業団地への進出につきましては、当社といたしましては地域にしっかりと根差した企業づくりということが一番の大事な基本としておりまして、その中でしっかりと用地の取得をさせていただき、より一層長岡のためにということで一つかじを切ったというところが一点。それから、当営業所につきましても年間5億円の売り上げを超えまして、雇用人員につきましても現行280人体制になりました。施設的に狭くなり、その点の改善というものも含めまして、こちらの長岡の土地に進出をさせていただいたところでございます。

今後の長岡での取り組みであります。既に当グループも6社ほどこの長岡のエリアで活動をさせていただいており、その中でもしっかりと長岡の中で当社独特の快適空間創造企業というものを題材にしておりますので、清掃用具につきましては長岡の地域におきましても、リデュース、リユース、リサイクルと3Rといったものがございまして、このモデルをしっかりとさらに生かして資源の有効

活用、ごみ減量化、環境問題の取り組みといったところでも長岡市のために貢献をしてみたい、建築物の維持というところもさらに進めてみたいと考えているところがございます。また安全・安心もテーマにしております。福祉用具の貸与ということで、長岡市も福祉社会に力を多く入れていらっしゃる地域です。その中でより一層、やはりこれからの高齢化社会の中で、私どもが提供している福祉用具は、在宅ということで、ご自宅で長くその方がご自分の力で長く生きていただくためのお手伝いをする器材でございます。その中で、しっかりと自立支援ということをより一層推し進めるといった企業であり続けたいと考えています。

また、補足でございますが、AEDという商材も扱っておりますので、こういった部分では地域の医療系統の連携を深めながら、AEDの普及も広めてみたいと考えております。

また、私どもも新潟県のハッピーパートナー企業ということで登録を進めておりますので、そういった面では男女共同参画ということにも積極的に取り組んでおりますので、この点においても営業所の運営、また職場づくりということで一つのモデルになり得る形を進められればと考えております。

また、私どもの事業の一端としては、本日皆様方の前にお水がございますが、これは弊社の関連企業グループの新潟県佐渡海洋深層水という企業があります。本年の2月から当社の傘下に入りまして、新潟県の地場産のものを全国に広げていくことで地域活性化の活動もさせていただいているところです。

最後になりますが、私どもは事業拡大によって福祉用具の事業ということで、居宅の、いわゆるケアマネージャーも今後取り扱いをスタートする予定にしております。

また、ビルメンテナンスにおいても、ホームサービスとして、職場、仕事に参加しやすい環境づくりへのお手伝いもできればと考えているところです。

私どもとしては、長岡市というところが住みやすく、働きやすく、また高齢社会のお手伝いも精いっぱい努めさせていただく企業として一生懸命頑張ってみてみたいと思っております。

また、もう一点は、皆様方も御存じのとおり、現在労働者不足という中で、いろいろな部分でロボット化が叫ばれておりますが、当社取り扱いのビルメンテナンス、福祉介護の分野につきましてもロボット化が進んでおります。ただ、福祉介護のロボット化も、例を挙げますといわゆるベンチャー企業による開発が多く、それを取り扱うのは大手企業となっている傾向があり、地域特性に合わせた商品というよりは現状への対策というものですので、この地域は、先ほどの市長のお話では非常に技術力のあるエリアとのことですので、その地域特性に合わせた商品開発というところにも当社としては一歩踏み出せればと考えています。

こちらの土地にこれからより一層根を張って、しっかりと地域のために貢献する企業として頑張ってみてみたいと思っております。

(司会)

進出企業6社より進出概要等についてご説明いただきました。

これより進出協定を締結いたします。事前に各社と本市、双方の署名はおおむね済ませておりますので、最後の一部に磯田市長が署名を行います。

それでは、磯田市長、進出協定書に署名をお願いいたします。

(進出協定書へ署名)

(司会)

ここに進出企業と長岡市との進出協定が締結されました。

なお、本日欠席の1社とは本日付けで進出協定を締結いたしますので、進出企業7社全てとの締結となります。

それでは、記念撮影を行いますので、皆様協定書をお持ちになってご起立ください。

(写真撮影)

(司会)

これより進出協定に関する質疑応答に入ります。

(記者)

先ほど柳下様から施設の構造や規模ですとか2階建てというお話があったのですが、各社の施設の構造や規模などお決まりでしたらお聞かせください。

(横塚)

アサヒロジスティクスでございます。

現在計画中ですが、1,000坪から1,500坪程度の平屋の建物を検討しております。冷凍庫、冷蔵庫、常温庫という三つの土台の倉庫と物流センターということで検討し、またBCPも含めましてインタンク自家スタンドを構えまして、盤石な物流体制を構築してまいりたいと考えております。

(高林)

カナカンです。

詳細についてはこれから詰めていくところでまだ決まっておりませんが、基本的には低温系の倉庫と常温系の食品関係の倉庫を建築予定でございます。詳細はこれからです。

(吉原)

JPCの吉原です。まだ決まっておりません。あまり固定観念で進めていかないようにして、いろいろな業者からいろいろな話を聞いています。できれば市内の業者さんを使って、地元にお金を落としたいと思っております。

(柳下)

柳下技研の工場は、敷地面積が1,515坪で、床面積が450坪、そのうち2階が150坪、全部で600坪の工場にします。

(門倉)

S y s eの門倉です。

弊社は、今検討しているのが床面積で約600坪の一部2階建てで、組立工場、加工工場、あと事務所、一部保育室もその中につくっていきたいと思っておりますが、詳細はまだ決定しておりません。

(坂爪)

中越クリーンサービスです。

基本スタイルとしましてはおおむね200坪の1階面積、敷地面積で、2階建てになるか、3階建てになるか、この辺はまだ今後の検討でございます。

(記者)

今回7社に選定する前に17社ほど応募があったかと思いますが、市内企業、市外企業、県外企業の内訳を教えてください。

あと、各社にお伺いします。先ほど進出企業の皆さんからお話いただきましたが、最終的にここにしようと思った決め手、きっかけをお聞かせください。

(産業立地課長)

17社の内訳についてお答えします。市内が5社、県内が5社、県外が7社です。

(横塚)

最終的な決め手というところ、やはりインターから目の前で、あとはジャンクションも近いので、関東からの荷物、また北陸も含めた日本海側全域をカバーできる立地というところがございます。

(高林)

新潟にセンターが一つございますので、新潟全域をカバーするときに新潟市内とこの長岡というのがやはり中心になるのかなというところと、今ほども話があったとおりで、やっぱりインターに近くアクセスが良いというところがございます。

(吉原)

JPCの吉原です。隣接の鉄工団地に今2工場あります。部品の加工工場と、設計・組立工場があります。この近くにあることと、やはりインターも近く、土地もあるということ、なおかつ長岡は鉄工の大手メーカーがたくさんあり、5キロ圏内に集約されていますので、そのフォローが迅速に対応できるということで選ばせていただきました。

(柳下)

柳下技研です。

宮内町に工場がありまして、そこで生産活動をしておりますが、約10年経ちまして狭くなり、ちょうど工業団地を探していたところで、いい場所があったので、今回応募しました。

(門倉)

S y s eです。

私どもの会社は、新産東町という長岡インターから大変近くて便利なところにあり、喜多町、三ツ郷屋に200坪、150坪、新産東町の本社が300坪あるのですが、手狭になりまして、また、みんなの顔が見えないということもありまして、ちょうど土地を探していたところ、インターにも近く、面積、価格もマッチしたというところ、今回決めさせてもらいました。

(坂爪)

中越クリーンサービスでございます。

弊社におきましては、やはりアクセスの良さという点で、長岡につきましては営業エリアが魚沼地区、柏崎と広域にわたっておりますので、また商品の特性上、福祉用具というのはやはりオーダーいただいてから即時納品といった対応のものが多く、そういった部分からこのアクセスの良さという点が決め手となっております。

(記者)

今回進出する各社はすべて今長岡市内に事業所を既にお持ちということで間違いないでしょうか。

(高林)

私どもは初めてです。

(記者)

協定書の中で、協議会の設置および運営というところがあり、その中で学生インターンシップの共同受け入れ態勢の構築というのがあるのですが、これは実際にやる予定があるのかどうかという点と、どういう体制をつくれるのか、現時点で何か検討していることがあれば教えてください。

(商工部長)

これは長岡市から答えさせていただきます。

こういったご提案をさせていただきましたら各社とも非常に快く受け入れていただきました。私どももいかにU・Iターンなり4大学1高専の学生をこの地で勤めていただくことができるかということに試行錯誤していて、ぜひこの団地内でインターンシップを各社と一緒に考えて実践できないかということで今回協定書に入れさせていただきました。具体的には、交通手段も含めて各社と今後相談していきたいと考えております。

(記者)

イメージで言うと、各社を回るようなインターンシップということでしょうか。

(商工部長)

それもあります。

(記者)

市長のご挨拶で、設備投資効果について約83億円程度とありましたが、各社それぞれの金額がわかればというのが一点と、あと、これは現在非公表の1社も含まれての金額なのかどうかをお聞かせください。

(産業立地課長)

設備投資効果は、各社の事業計画の合計の額でございます。非公表の会社も含まれております。それぞれの内訳については、各社へお問い合わせいただければと思います。

(司会)

以上をもちまして、長岡北スマート流通産業団地第1期エリア進出協定合同締結式を終了します。ありがとうございました。